

特定非営利活動法人

日本雲南聯誼協会

【本 部】〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1

JR東急目黒ビル7F

Tel. (03) 5435-5977 Fax. (03) 5435-5978

Email: yunnan@jyfa.org

URL: http://www.jyfa.org

【雲南事務局】雲南省昆明市拓東45号世博大 2605室

Tel. +86-871-3188468 Fax. +86-871-3188468

編集・発行人 初鹿野惠蘭

印刷協力 翠日経印刷 摂技術評論社

Japan Yunnan  
Friendship Association

# 彩雲の南

第17号

発行日 2005年(平成17年)9月10日

会報

## 第6,7校目支援小学校開校式のご報告



文房具や遊具のプレゼントを渡す参加者たち



日中果科僑心小学校にて集合写真

怒江の流れのように私たちの友好関係がいつまでも続きますように…！



青那桶小学校の入口では、児童や先生方が歌と踊りで出迎えをしてくれました

嬉しい道のりを四輪駆動車で

この度、当協会支援による第6校目「日中青那桶（チナアトン）僑心小学校」（雲南省怒江リス族自治州貢山県丙中洛）、第7校目「日中果科（グオク）僑心小学校」（同州福貢県）が開校しました。2005年8月7日～14日、初鹿野理事長を団長とする協会開校式ツアーワー一行は開校式参列のため、会員及び支援者を代表し雲南省へ行ってまいりました。

両校とも、現地に辿り着くまでが苦労の連続でした。道なき道をゆくとはまさにこのことで、参加者の皆様のご理解なくしては実現できないツアーワーでした。

2005年8月8日、果科小学校の開校式が行われました。この日は前日の雨の影響で道がぬかるみ、舗装された道ではない為、安全をきしてツアーワー参加メンバーの一部が行くことになりました。四輪駆動車数台に分かれ、7kmの道を1時間50分ほどかけて登ってゆきました。車の幅ぎりぎりのヘアピンカーブを何回も切りかえしながら曲がり、ゆっくり登ってゆきます。すぐ横は崖、一步間違えばそのまま谷へ落ち、怒江の激流に飲み込まれてしまうという、非常に危険な場所でした。また、車がエンストして滑っていくヒヤッとする場面もありました。普通の中国人でいいかのような、最奥地です。

学校は山の頂上、標高1900mの場所にあります。夏休み中にも関わらず、「ホワンイン（ようこそ！）」と子供たちが大声で歌いながら迎えてくれました。学校にはどうもろこしのお酒、どうもろこし、ジャガイモ、きゅうりなど

どの盛大なおもてなし用意されていました。自分たちの持っているものをお客さんに出してあげよう、という暖かい気持ちを切に感じ、思わず目頭が熱くなるのを感じました。

### 第7校目日中果科（グオク）僑心小学校の開校式

開校式は20人以上の外国からの訪問者を迎えるのが初めてなのか、子供たちのびっくりしたようなまなざしを受けて始まりました。子供たちは興味津々半分・真剣半分でこちらを見ていきました。式の中で私が「勉強は好きですか？」、「元気ですか？」「うれしいですか？」など問い合わせると、子供たちは割れるほどの声で元気に答えてくれました。北原理事は、「大変な環境で生活している皆はとても強く頑張りやさんだ。勉強は大切なので頑張ってほしい。みんなのきらきらした目を忘れません。」と述べました。また、雲南省政府の方は「大きくなったらこの怒江のよう日本と中国の友情をいつまでも続けていてほしい。」と子供たちに語りかけました。

開校式を終えると、天候の変化が心配され、子供たちとの交流もままならず、やむ終えず下山することになりました。途中で車輪がぬかるみにはまってしまった為、外に出で徒步で下山する場面もありました。

### 6校目日中青那桶（チナアトン）僑心小学校へ

翌日、一行は第6校目日中青那桶小学校へ出発しました。キリスト教徒が多いリス族地域だけに、十字架を掲げた教会をいくつも見ることが出来ました。



開校式でプレゼントをもらって児童たちは大喜びです



青那桶小学校の2階建ての新校舎 まだできばかりで机も椅子も入っていません

小学校に到着した参加者は子供たちの拍手と民族楽器を奏でる若者や民族衣装で踊っている若い女性に歓迎されました。歌をした子供たちを両側に、真ん中を通って学校内へ入っていました。学校に入る前、中国の白酒と葡萄牙のおもてなしがありました。その昔、少数民族はほとんど外界との接触が無く、お酒を飲んで勇氣を奮い立たせ世界の者たちとの交流の潤滑剤としたそうです。

花壇を真ん中に、両側に二階建ての新しい校舎が建っています。校庭の隅には児童の成績が貼りだされていて、自分の名前を一生懸命指差して私に自分の勉強の成果を教えてくれた子供、校舎内を案内してくれた3年生の女の子等、限られた時間の中でも子供達とのふれあいができました。

開校式は出席者それぞれからお言葉を頂く形で進行しました。式の最後に、日本からの贈り物を子供たちに手渡しました。日本の皆様から頂いた大切な贈り物です。文具や玩具、書籍など様々なものがありました。

シンガポールから今回のツアーワーに参加された張さんご夫妻は、おもちゃの車を贈りました。子供たちに手渡す時に、「今はおもちゃの車でも将来本物の車を持てるよう、一つの目標として頑張って勉強してほしい」と声をかけていました。

雲南の子供は、最近の日本の子供達に比べると「勉強をする為に学校にくる」という強い目的意識を感じる、という感想が参加者の方から聞くことができました。

希望に満ちた面持ちで席についている子供たちの様子は、今も忘れられません。何度も行つても、涙があふれそうになります。今後もこのNPO法人日本・雲南聯誼協会の活動を、小さいながらも真摯に続けていこうと思ひを強く致しました。  
(理事長 初鹿野恵蘭)

# 開校式での笑顔と言葉たち

開校式は6校目、7校目ともに道路の状況によって一行の到着時間が遅れ、予定時間を大幅に過ぎてからのスタートとなりました。それにも拘らず子どもたちはじめ先生方、村の住人の皆さんには笑顔で待っていてくれ、心からの歓迎をしてくれました。そんな温かい笑顔の数々です。



開校式の様子



プレゼントを配る日本からの参列者たち

## 「北原茂実理事のことば」

皆さん、大きくなったら何になりたいですか？私は今昆明で医療方面で皆さんの役に立てるよう活動を始めています。今日、ここまで来るのにとても時間がかかりました。なかなか来られないところですので、今日はとてもうれしいです。皆さんが一生懸命に勉学に励み、未来に向かって羽ばたけるよう祈っています。5年後、またこの地にお邪魔して、皆さんの頑張る姿がみられたならなあ、と思います。将来、医療の分野でも活躍してもらいたいと思います。

## 「尹曰葵様のことば（雲南省側）」

温かい日本の皆さんへの感謝の気持ちを忘れず、それに酬いることができるよう、これからも一生懸命勉学に励んでください。



開校式の様子



青邦橋小学校の児童たちと（中央・初鹿野理事長）



## 「小学校児童代表から挨拶」

今日は遠い所から来て頂いてありがとうございます。皆さん、私達を支えてくださってありがとうございます。これから頑張って勉強します。

## 「JR貨物労組総会博恭様のことば」

この学校に到着するまで疲れましたが、皆さんの笑顔と心よりの暖かい歓迎を受け、その疲れも吹き飛んでしまいました。協会の活動を知り、私たちも協力させていただいております。皆さん、勉強好きですか？（「好きー！」）皆さん勉強が大好きなようなので、これからも頑張ってください。



北原理事と児童  
につこりご挨拶です

## 「峰尾勝美様のことば」

日本文化は遡れば中国からきましたから、皆さんと私は友達ですね。私は中国が大好きで、もう何回も来ています。今日皆さんに会って、皆さんは雲南を、そして中国を支えていく力を持った子供たちなんだなーと感じました。突然沢山の人が来てびっくりしたでしょう？（「びっくりしたー！」）皆さん、一生懸命勉強してこの雲南をもっともっと良くしていくように頑張ってくださいね。



先生とのかたい握手！



うわあたくさん的人がいるね

## ●日中藤謙小学校と久米島仲里小学校がフレンドシップ協定を締結しました！●

今回のツアー中、第4校目「日中藤謙備心小学校」を訪問し、沖縄久米島の「仲里小学校」とのフレンドシップ協定書の調印式を行いました。日本の小学校と雲南の小学校の児童・地域を巻き込んでの友好交流が、もうすぐ始まります。仲里小学校のある久米島は豊かな生息で有名な地域。雲南省にも豊かな生息するという共通点から、フレンドシップ協定の話が進みました。この協定プロジェクトは、小学校建設プロジェクトと共にNPO法人日本・雲南聯誼協会とアジア教育友好協会が協力しながら進めています。交流を通して日中双方の児童たちがお互いの社会・文化を理解し友好を深め、将来大きな視野を持った人間に成長してくれればとの願いを持っています。



藤謙小学校の前でフレンドシップ調印を記念して撮影

## ○●ツアー参加者から開校式に関する感想●○

(一部抜粋)

●とても明るい人たちで人間の幸せとはなんなのかと考えさせられました。あの大自然の中での人間の弱さ小ささしかしさ子供たちの可能性はどこにいても同じであり、子供たちの笑顔の中に未来を、力強さを見たと思います。●いま日中関係が特別な段階にあるなかで、ほんとの意味のほんとの人々による交流ができた。●教え、育て、そして学ぶ場所（学校）、この三位一体こそ人間を変え国を変え世界を変える原点であることを痛感させられた感動の旅でした。●地元の皆さんはあるほど喜ばれているとは思いませんでした。本当に学校を望んでいるんですね。●貧しい姿ではあるが、澄んだ瞳が輝いていた。人間として立派に育ってほしいと願わずにはいられなかった。●秘境の学校を訪ねることができ、感無量です。同行の方々との出会いと交流も素晴らしいかったです。東麗さんの人柄と熱意に改めて打たれました。子供たちや村人が喜んでくれているのが直に伝わってきて、支援の意味がよくわかりました。沢山の人が協力・連携・連帯して、開校式が行えるところまでいっていることがひしひしと伝わってきました。●旅行が楽しく有意義だったかどうかと言うことは、同行者に恵まれたかどうか。。。という事が多いに関係してくると思っています。今回100%知らない人々の間で旅行させていただき、楽しい思い出をたくさん頂きました。きっと同じ目的を持った者同志の連帯感があったからだとおもいます。皆様にありがとうございました。

**子供達への贈り物をいただきました**

JR西日本/大地の会（JR西労）/一冊の会/峰尾勝美・峰尾洋子/小池洋子/  
柴崎実保・張恩慈・鄭/近藤錦一/中野慶/（順不同敬称略） ありがとうございました！



左) 集めた贈り物をツアー参加者で仕分けしているところ  
右) 贈り物を手にしてうれしい笑顔の子供達



今回の開校式ツアーでは、法人会員の農業観光様に全ての日程の手配・添乗をしていただきました。改めて感謝申し上げます。また、北京から参加くださった曹光顧問、ツアー中も様々なご配慮をいただきましてありがとうございます。そして、ツアーリーにご参加くださった全ての方々に非常に感謝！

## 初鹿野理事長挨拶「光陰矢のごとし」



NPO法人日本・雲南聯誼協会は、皆さんのご協力で、設立5年を迎えました。今日の日を、特別な想いでこの場をお借りし、皆さんに深く感謝いたします。

中国雲南省奥地からたった一人日本にやってきて、故郷雲南省麗江の大震をきっかけに故郷の少数民族教育支援をはじめました。そして、5年前の今日この日、故郷の少数民族教育支援への一途な想いで日本と雲南を繋ぐ唯一の小さな橋を立ち上げました。5年の歳月を振り返ってみますと、活動を通してたくさんの素晴らしい日本の方たちと出会い、皆さんの大きな無償の愛情に育てられ、協会と共に私自身も成長できたと感謝しております。役員、会員およびボランティアの方々に支えられ、5年間で、協会の大きな趣旨である教育支援活動は、7校の小学校寄付という実を結びました。また、環境、医療、文化交流、学術交流などの分野でも確実に成果をあげています。

皆さんのご厚意でできた小学校では、5年の間に、たくさんの少数民族の子供達がたくさん知識を学び、読み書きできるようになります。日本の皆さんに感謝の気持ちを抱きながら卒業していきました。協会を通して日本と雲南がお互いの理解を深め交流することができ、雲南省人民政府、昆明市政府も、日本の皆さんにとても感謝しています。同時に、協会の雲南省への貢献も高く評価いただいております。これからも両国の友好のため、切っても切れない絆を育み、日本、雲南にとって有意義な活動を行い、みなさんから、また、社会から信頼され、愛される魅力あるNPOとして頑張っていきます。まだまだ未熟で小さい団体ですが、これからも末永く宜しくお願ひ致します。

NPO法人日本・雲南聯誼協会  
理事長 初鹿野恵蘭



議長の小山義司

## 第5回定期総会

6月25日、皆様のおかげをもちまして無事に第五回定期総会・懇親会を終えることができました。東京・八王子学園都市センターセミナーにてNPO法人日本・雲南聯誼協会設立5周年の定期総会を開催しました。役員・会員・事務局を含め30名ほどが集まり、協会の活動報告・会計収支報告・今年度の事業計画について議題を進めました。ご出席くださった皆様、また、準備・運営にご協力いただいた方に感謝申上げます。初鹿野恵蘭理事長から挨拶。5周年に際しての、皆様への感謝の意を表した挨拶がありました。開会のことばは、唐澤英安理事より協会の更なる発展のため、皆が意見を出し合っていくことの大切さ、活動評価システムについてなど具体的なご提案をしていただきました。遠藤功理事、桂正紀理事から活動報告と会計収支報告、事業計画についての報告をしていただきました。杉谷専務理事から温かい想いのつまつた閉会のことばをいただきました。



唐澤理事のことば



総会開催は協会誕生の地八王子で

# おかげさまで5周年



雲南省帰国華僑連合会主席 陳碧雲氏



祝辞を述べるJR総連 山下信二書記長



席を立って中国式乾杯で交流する場面も

## 5周年記念懇親会（雲南省昆明にて）

2005年8月12日、昆明市内の邦克飯店にて「NPO法人日本・雲南聯誼協会設立5周年記念懇親会」を開催しました。日本、そして昆明から開校式ツアーに参加した一行と、雲南省側のご来賓を合わせて約120名が一同に集い、盛大に設立5周年を祝うと共にお互いに交流を深めました。初鹿野理事長からは、この5年間の教育支援をはじめとする活動が、少しづつでも実を結んでいているということ、そして同時に日本と中国双方でお世話になった様々な方々への感謝の意が述べられました。

雲南省統戰部副部長の張功祥氏はじめ、皆様から祝辞をいただき、続いて乾杯、そして交流がはじまりました。協会の5年間の活動をパワーポイントを使って披露すると、雲南省側の関係者は真剣なまなざしで見入っていて、協会の幅広い活動について、理解してもらうことができました。

出席した皆さんは、それぞれが日中混合のテーブルについて、会話を弾ませたり、席を立って杯を交わしたり、思い思いの時間をすごしました。予定の2時間を過ぎてもまだその場に残りたい、会話を楽しむ、そんな声があがる中、成功のうちに幕を閉じました。



大理州から記念として  
大理石の置物が贈られました



日本と雲南あわせて120名もの参加者がありました

祝辞を下さった方々です。  
謝謝！！

<雲南側>

省委組織部副部長

張功祥様

省帰国華僑連合会主席

陳碧雲様

<日本側>

JR総連書記長

山下信二様

北原脳神経外科病院理事長

北原茂美様（当協会理事）

NPO天眞会代表

青木宏之様

中国雲南省側の主な参列機関

省人大・省政協・省統戰部・

省教育廳・省商務廳・省經貿委・

省僑務弁・財政厅・省司法厅・省僑聯・省旅遊局・省對外投資弁公室・省僑弁公厅

・省国有资产監督管理委員會

・省政府經濟合作弁公室・國際合作處・大理州僑弁・昆明市僑聯・昆明市政府等

機関代表の皆様 非常感謝！

## 5周年記念忘年会開催！

当協会は今年で創立5周年を迎えることが出来ました。雲南省での7校の小学校の建設など、これまで様々なことを達成してきました。これも皆様のご支援・ご協力のお陰と感謝致します。さて恒例の忘年会ですが、今年は5周年のお祝いと併せて行いたいと思います。ぜひ華やかな席にしましょう。この5年間を振り返りつつも、また新たな5年後の夢を大いに語らいあいたいと思います。ぜひふるってご出席下さい！

【日時】11月20日(日) 1時～20時  
【場所】新宿京王プラザホテル  
【会費】10000円(寄付金・記念品代込)

## 今後の協会の活動

- 10月1(土)・2日(日)  
グローバルフェスタJAPAN 2005に出展at東京日比谷公園 同日とも10時～17時
- 10月10日(日) チャリティゴルフ大会at河口湖カントリークラブ
- 11月 当協会支援第8校目紅河州ハニ族イ族自治州他撒小学校完成予定
- 11月20日(日) 協会5周年記念忘年会 at京王プラザホテル

## 連載 雲南を彩る25の星たち

「雲南を彩る25の星たち」では、雲南省で生活する25の少数民族一つ一つにスポットを当て、順番に紹介していきます。

### 第2回 愤(スー)族

懲族は雲南省にのみ住んでいる少数民族で、2000年の統計では約2.7万人。主要な居住地域は雲南省北西部の怒江リス族自治州である。懲族の住む地域を流れる川の「懲江」という名称は、懲族の言語で「黒い水」という意味の言葉に由来。彼らの住む地域では海拔3000mほどもあり、様々な気候が入り混じっている。その為多様な植物、農作物、動物がみられ、鉱産物も豊富。懲族は文字を持たず、昔から口承で歌や物語などを伝えてきた。現在では既に見られなくなつたが、昔は大きな出来事を木に刻みをつつけたり、縄に結び目をしたりして記録していた。リス族との交流が盛んであった為、リス族の言葉を話せる人も多い。

協会では第6校目として、雲南省最貧困地域の一つである怒江州の最北端に位置する丙中洛郷に、丙中洛青那桶衛心小学校を建設した。多くの懲族の子供が通っている。また第7校目として、怒江リス族自治州のほぼ真ん中に位置する福貢県の匹河鄉果科村という懲族の村において、日中果科衛心小学校も開校した。

## ♪ 第2回チャリティコンサート開催！

2005年7月9日(土)立川で、第2回チャリティコンサートを開催致しました。当日はあいにくの雨交じりの曇り空でしたが、高山さんの歌と永瀬さんのピアノ、色彩豊かな民族衣装が会場を常春の雲南省へと誇ってくれました。来場者数はおかげさまで100名を超え、大盛況の内に終えることができました。今回のコンサートでは、募金箱などにより2100円を寄せ金として頂きました。皆様の温かいご支援に、改めて感謝申し上げます。並びに、当日ボランティアを引き受けて下さった方々・ご来場下さった方々にも御礼申し上げます。最後になりましたが、出演者の高山千代美さん・永瀬純子さん、また企画運営の中村有里子理事に心より感謝致します。



会場と共に「大海」を大合唱しました



歌手の高山さんとピアニストの永瀬さん

## 中日観光交流促進大会に参加しました

2005年7月26日(火)東京プリンスホテルにて中国国家観光局・中国駐日本大使館の主催の観光交流促進大会が開催されました。この大会は中日両国の観光交流のますますの発展を願って開かれたもので、財界・政界などから数多くの方々が参加する華やかな一席となりました。



雲南省から来た舞踊団

当協会からは初鹿野恵蘭理事長と片岡巖顧問が参加しました。初鹿野理事長と片岡巖顧問は会の席で様々な分野で活躍する方々と歓談し、当協会の理念の普及に努め、日中友好促進を政治家の方々にお願いする一幕もありました。また、この度中国の国家観光局局長に新たに就任した邵氏は雲南省出身で、理事長とも縁の深い方で、今後の協会の活動でもきっとお世話になる機会も多くなると思います。

左から) 初鹿野理事長、中国国家旅遊局局長邵琪偉氏  
雲南省旅遊局局長陳明義氏

## ワイルドライフ映像祭を訪ねて



会場の様子



中央 太田理事長

8月4日から7日まで、JAPAN Wildlife Film Festival(通称ワイルドライフ映像祭)が開かれました。映像祭を主催しているNPO法人地球映像ネットワークの太田理事長とのご縁もあって、当協会の初鹿野理事長が映像祭を訪ねました。このワイルドライフ映像祭は、アジア最大の自然・野生生物の国際映像祭です。1993年8月に富山で始まってから2年毎の開催で、今年で7回目を迎えました。日頃なかなか見る機会のない世界の秘境や野生に生きる動物たちの姿を身近に楽しめ、体感できる映像祭として広く親しまれています。「次代を担う子供たちに美しい地球を託していきたい」という思いのもと運営されています。地球映像ネットワークでは、現在、雲南省シャンギリラ県に映画館建設を計画中です。場所の選定にあたっては、大自然の残るところで、地球環境に関わる映像を流したいという思いがありました。今回の映像祭訪問ではその映画館プロジェクトについて話し合いをしました。当協会もこの計画に共感し、今後実現に全力をあげて協力していきたいと考えています。

## サポートのお願い

NPO法人 日本・雲南聯誼協会では、雲南省貧困少数民族への小学校建設を柱とした教育支援活動を行っております。詳しいパンフレットや会報バッケンバーご希望の方、入会のお申し込みについては協会事務局までお気軽にお問い合わせください。

### 【連絡先】

TEL: (03) 5435-5977 MAIL:yunnan@jyfa.org

### 【会費】

正会員 500円/月(年額6000円)

賛助会員1000円/月(年12000円/1口)

法人会員1500円/月(年18000円/1口)

## 胡曉幸氏 水彩画展開催



胡先生、片岡顧問、初鹿野理事長

7月2日(土)から7日まで湘南産業センターにて、昆明画院院長の胡曉幸氏の水彩画展が開催されました。開催初日のオープニングパーティには初鹿野理事長と片岡顧問が出席しました。また、大鉢麗佳さん・那須英人さん・近藤毅一さんなど当協会会員の方も会場に駆けつけて下さいました。7日には理事長と片岡顧問が東京を初めて訪れるという胡先生と共に、上野の美術館めぐりをしました。胡先生は、日本の美術資料の蓄積や展覧会の水準の高さにとても感心していました。

## ご存知ですか？雲南省

### 雲南省



### 中華人民共和国



雲南省は中国最西南部に位置し、ミャンマー・ラオス・ベトナムと国境を接しています。面積は約39万平方キロメートル(日本とほぼ同面積)で人口約4300万人です。面積の94%が山地で、海拔76mの鎮南河口から、6740mの梅里雪山という高山も存在する特色豊かな地域。省都は常春の都と呼ばれる「昆明」です。

### 一呼吸法と瞑想を通して真我に出会いう一

### 【原久子の瞑想・呼吸法セミナー】

私たち人間が生活しているのは『三次元の世界』ですが、心は『異次元』の世界にあります。三次元で実現することは異次元(心の世界)でいたん思つたり、感じたり、想像した結果なのです。これは心の法則なので、私たちが日常頃、心の中で何を想い、どう感じるかによってその人の運命はプラスの方向にもマイナスの方向にも展開していくのです。つまり、感謝や喜びの心で生活をしている方は、感謝や喜びのある人生が展開され、不安や恐れ、不満の心で生活しているとマイナス的な事に翻弄してしまうことになります。皆様方の理想・希望が実現する方法がこの瞑想・呼吸法セミナーになります。瞑想・呼吸法セミナーでは、毎回、原久子の講和と瞑想・呼吸法を行っています。正しい瞑想呼吸法を実践してくださることによってどなたでもアルファ波の脳波が出るようになります。

【日程】 13:15～16:45 (12:50～受付開始)

2005年 (瞑想のテーマ)

9月10日(土) 感謝の呼吸法・感謝の瞑想

10月15日(土) 五体投地の呼吸法・希望実現瞑想

11月13日(日) 自己ヒーリング呼吸法・真我実現瞑想

12月11日(日) 感謝の呼吸法・感謝の瞑想

【セミナーの内容】原久子講話・ストレッチ

ヒーリング瞑想テーマ別瞑想・呼吸法・質疑応答他

※1回体験5000円

※お問い合わせ・お申込みは原アカデミー事務局まで。

原アカデミー事務局  
167-0053  
東京都杉並区西荻南  
3-8-16-805  
Tel03-3335-1170  
Fax03-3335-3202  
e-mail:office@hara.ac  
http://www.hara.ac

## 中国雲南省最奥の秘境

## 独龍江で 学校を待つ子供たち

初鹿野恵蘭・片岡巖(著) 1554円(税込)



「独龍江で学校を待つ子供たち」を読んで

子供達の笑顔に心が和み、壮大で美しい雲南の風景に、まるで一緒に旅をしているような気持ちになりました。雲南の子供達を想う筆者らの行動力に強く感銘を受け、今、人として何ができるのかを深く考えさせられました。(仲宗川県4歳農主婦) 行間に筆者達の心の温かさ、優しさが垣間見られあふれんばかりの愛情がユキモアも交えた文章から読み手の胸に伝わってきました。(東京都6歳女性) 白聞は一見に如かず。カラー写真が多いのが良いですね。子供の瞳と笑顔はかけがえのない宝。このような支援を地道に継続し理解してもらう努力を続けてはならないですね。(高知県5歳男性)